

歴代校長



初代校長 黒沢 敏雄
(昭和58年度～昭和60年度)



2代校長 中田喜久雄
(昭和61年度～昭和62年度)



3代校長 野崎 公明
(昭和63年度～平成元年度)



4代校長 杉本 峻史
(平成2年度～平成3年度)



5代校長 辻 光男
(平成4年度～平成6年度)



6代校長 辻野 知範
(平成7年度～平成8年度)



7代校長 藤縄 豊子
(平成9年度～平成10年度)



8代校長 宍戸美喜子
(平成11年度～平成12年度)



9代校長 堀田 輝義
(平成13年度～平成14年度)



「利正桜」に思う

10代校長 石上 和子
(平成15年度～18年度)

創校30周年を迎え、ますます充実した教育活動を展開されておりますこと、心よりお祝い申し上げます。

まもなく春を迎え、前庭の桜も30周年を祝うかのようにたくさんの花を咲かせることでしょう。実は、この桜には「利正桜」という名前が付いているのです。以前、この場所には、立派な松の大木が植えられていました。ところが、なぜか突然、葉が黄色に変わり、あっという間に枯れてしまったのです。そんな時、後援会長の野村利正さんが、小学校にふさわしい木をと桜の木を植えてくださったのです。

この話は、ほんの一例ですが、当校は、地域や保護者の方々が子どもたちのために心も体もかけてくださる、「地域と学校」が一体になった日本一の学校です。

陽南っ子の皆さん、桜を愛する時には、皆さんを支える多くの人たちの愛情を思い起こしてください。そして、一人一人が目指す「太陽の子」に向かって力強く歩んでください。



陽南小学校のかおり

11代校長 野間 喜代美
(平成19年度～20年度)

今もまぶたに浮かぶ姿は、恒例の長縄跳びの時間、一人で跳べるようになった1年生。6年生に手を取られておそろおそろ長縄に入る日々、ついに一人で跳べた時の、うれしくて得意そうな顔。手を貸したことなど忘れたように目を細める6年生の姿に、教えることの本質を見ました。

今も思い出すにおいは、みんなで食べた給食。ランチルームの戸を開けたとたん、ほんわり漂うにおいが、その日のメニューを教えてくださいました。挨拶もそこそこで大きな口にほおばりました。

今も耳に残る声は、全校で歌う校歌。学校が大好きなんだということが伝わってきました。

当校を思う時、聞こえる音。陽南の鐘が心に響き、私は陽南小学校の教師であったことを誇りに思うのです。



受け継がれる熱い思い

12代校長 深川 善弘
(平成21年度～22年度)

創校30周年を迎えられましたことに、心からお祝い申し上げます。

当校に着任してすぐに、カリヨンの鐘や校歌の斬新さに驚きました。校歌の歌詞の終わりは、3番とも「陽南の鐘 ひびく園(丘、空) 心に太陽 火と燃える」となっています。清水美晴先生が作詞されたことを知り、先生の熱い精神が溢れ、迸っているように感じました。

以後、この校歌を歌う度に自分を振り返り、励まされて勇気をいただきました。今でもこのフレーズとともに、陽南小学校の子どもたちの様子が鮮やかに蘇ってきます。きっと巣立った子どもたちにも熱い思いが脈々と受け継がれていると思います。

今後の陽南小学校の一層のご発展をお祈り申し上げます。